
信号機

maimai

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

信号機

【Nコード】

N5259A

【作者名】

maimai

【あらすじ】

もし、一日だけ、別のものになれたとしたら・・・

職場一日体験、ということになるのかなあ。

もし、一日だけ別のものになれるとしたら、信号機になってみたい。道路に立つてる、あの信号機。

車好きにはたまない体験だよ、きっと。

一日一箇所に留まっていられるいろんな車が、見放題。

けっこう高い位置から見られて、気分は向上。

あんまり注目されない。

見られるとしても、ほんの一瞬だけ。

いろんなかたちの車、いろんな色の車、いろんな大きさの車、そこに乗っているひとをも観察できる、とても魅力的な場所。

いないと交通はメチャクチャになるだろうし、でも、あんまり嫉妬深く迫ってこられたりもしないし。

必要とされている存在だけど、あんまりギトギトしてない職場。

いわばドライな立場？

声を発しなくていいし、いろんな光景を一箇所で見ることができる。うーん、なんておいしい場所なんだろう。

いつでも誰かにそばにいられると、時々嫌気が生じたり。

いつでもひとりぼっちだと、ほんとは寂しいくせにやけに強がり。

だから時々、こういう信号機みたいなところに一日たたずんで、流れに身を任せてみるって体験も、必要なのかもね。

でも、ずっと一箇所にたたずんで、自分以外の者たちだけがただただ動いていくのを見ているのも、狂おしいほどに辛くなったりもするから、信号機体験も時々でいい。

こんなふうに、いろいろ時々っていうことを、忘れないようにしよう。

いつも同じ状態では、そこにあるはずの大切なものを感じられなく

なっっちゃう気がする。

だから時々、離れてみたり、時には留まって悩んだりして。別のところで、さっきいた場所のありがたみとか、急に分かったりもする。

そういうふうに、いろいろ巡って、それぞれに存在している大切なことたちを、見つけてあげたい。

その一箇所にも、信号機みたいな場所をキープしておいても、ありだよね？

うん、ありあり。

（後書き）

日々、ちよつとずつ想つたことを、短くまとめています。感想などございましたら、ぜひお寄せください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5259a/>

信号機

2010年10月25日02時07分発行